

とよなか

(部内資料)

教え子を再び戦場に送るな！ 2018年8月10日発行NO. 593

子ども達の豊か
な成長・発達の
ために皆で力を
合わせましょう！

被爆者の声、世界の声は 核兵器のない世界の実現

背を向け 核兵器に固執する 日本政府（安倍首相）

原爆投下から73年目の夏、
8月6日、9日に広島・
長崎で平和祈念式典が行
われました。

国連からグテレス事務
総長が初めて被爆地長崎
を訪れ被爆者と懇談を行
いました。

広島・長崎の市長はい
ずれも昨年国連で採択さ
れた核兵器禁止条約に言
及しました。

その一方、安倍首相の
姿勢に被爆者は大きな怒
り失望の声をあげていま
す。

広島での式典後、被爆
者7団体との懇談で、核
兵器禁止条約への署名・
批准を求める声に、安倍
首相は「参加しない考え
に変わりない」と拒否。

被爆者団体の事務局長
は「われわれの要望に全
然聞く耳を持たない態度
は腹立たしいことこの上
ない。もう（広島に）来

てほしくない」と怒りを
あらわにしています。

唯一の戦争被爆国の政
府が、核兵器をなくす先
頭に立たず、国連で採択
された核兵器禁止条約へ
の署名や批准を拒否する
態度に被爆者だけでなく
世界からも批判・疑問の
声が出ています。
こうした姿勢を変えさ



被爆者と懇談する国連事務総長（広島）

せるのは、国民の世論・
声の広がりです。

風水害に関する 特別休暇について

7月上旬の西日本豪雨。
豊中市も7月5日、6日
と2日続けて警報が出て
いました。

5日は夕方にかけて風
雨が強まりました。また
6日は前日からの暴風雨
が激しくなり交通機関も
運休するなどとなりました。

この日の対応は、学校
によって、帰宅には「年
休」しか認めない！とこ
ろもありました。

特別休暇があります

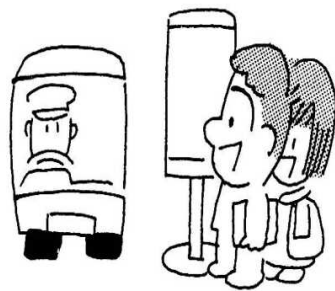
一定の目的に個人の都
合が合致した場合、校長
が承認する特別休暇に次
のものがあります。

D 「風水害・震災その他
の非常災害又は交通機
関の事故等により勤務で
きな場合」

F 「風水害・震災その他
の非常災害時において、
退勤途上における身体の
危険を回避するために勤
務しないことがやむを得
ないと認められる場合」

5日、6日、職場によつ
ては一人ひとり「D」や
「F」が認められていま
す。

それぞれの職場で、どの
ような場合に該当するの
か、管理職と話をするこ
とが大切です。



中学校使用教科書 「光村」に

8月6日に行われた教
育委員会会議で来年度か
ら中学校で使用される道
徳教科書に「光村」が採
択されました。

熱中症予防・酷暑対策で 市教委に申し入れ

これまでにない酷暑続きの中で終わった一学期。全教豊中教組はこの酷暑の中で、子どもの健康・安全を守るために7月19日、23日、市教委に要望を行いました。

一般的な回答をおこないました。

その後、気象庁が緊急の会見を行う中、市教委は夏のプール開放事業、水泳大会の中止を決定しました。

気象「警報」・光化学スモッグ情報と同様に「暑さ」でも

豊中市では大雨・防風・洪水等何らかの気象の「警報」が発令されていれば、自宅待機となりま。また、光化学スモッグも注意報・警報が発令されれば、運動場での遊びをやめさせるなど放送を入れることをしています。

全教は熱中症の心配がされる中、「暑さ指数」など市として客観的な指標で運動の中止など基準をもつ必要があるのではないかと投げかけました。市教委は「各学校に注意喚起をおこなった」と一

電気使用のピークの改善を！ 「連絡入れれば対応

高温続きで冷房使用がピークになった7月18日、19日。学校では電気使用制限が働き、校内放送で「不必要な電気を消してください！」という放送が流れた学校が相次ぎました。

学校ごとに、これ以上電気を使用しないという制限がかけられています。市教委施設係によると、10校ほど（7/23時点）

がこの間の暑さの中で、電気使用制限を変えてほしいと連絡があり、対応したとのこと。異常な暑さが続いています。これまでの暑さに

基づいた電気使用制限では繰り返しピーク音がなることとなります。

2学期スタートの8月下旬も残暑が予想される中、電気使用制限があるため必要なエアコン使用を控えることがないよう電気使用制限の改善を市教委に伝えましょう。

快適なプールにするために 「必要な水道利用も当然OK！」

「オーバーフローをした水道料金がかるという中で、プールの水の使用が抑制的になる中、水温が33℃、34℃、プールサイドの温度が40℃近い状況が学期末続きました。水温を下げるだけでも、

市教委も子どもの健康・安全が第一といっています。子どもたちが快適にプールに入れるように、

必要な水道使用をすることは構わないと確認しました。

大教済 総合共済加入者の 皆さん

大阪北部地震による 見舞金の手続きまだの方

今回の大阪北部地震では豊中市は災害救助法適用市となりました。また、豊中に当日勤務していた教職員にも、お見舞金が支給されます。

適用見舞金 5000円

7月中に職場に申請書を届けています。まだ、提出されておられない方、手続きがまだの方は、提出ください。わからないことがあれば、全教豊中教組までご連絡ください。

教職員を守ります ぞるえば安心 ビッグスリー!!

1 総合共済

退職時に

掛金全額戻ります!

うれしいとき、かなしいときに、あなたを応援します。

- 結婚した時……10,000円
- 出産した時……5,000円
- 結婚記念日に…20,000円
満15年、満25年、満35年のいずれか1回
- 独身の方に
クリスタル給付…20,000円
※加入10年以上かつ40歳以上の職場で就業給付を受けたことなし
- 火災見舞金……最高10万円
- 自然災害見舞金…最高10万円
- 救助法適用見舞金…5,000円
- 本人が亡くなった時…
10万円+退会給付(掛金全額)
- 配偶者が亡くなった時…3万円
- 親が亡くなった時
……………1万円
(実父母・義父母・妻父母を問い
ません。ただし2回まで)
- 病気療養見舞金
……………1万円
※連続して30日以上病気やケガによ
る欠勤(給付は年に1回)



月々600円の掛金

新規加入の方に1,000円分の
クオカードをプレゼント!!



6月23日は沖縄「慰霊の日」。1945年のこの日に組織的な戦闘が終結したことになんて定められました。現在、県の条例で県下では休日。
毎年、糸満摩文仁の平和祈念公園で沖縄全戦没者追悼式が行われています。
今年の追悼式で中学生が読んだ詩を紹介します。

豊中は沖縄市と兄弟都市です。毎年この6月23日前後（今年は6月22日）の小学校給食の献立は沖縄料理が出されています。

平和の詩「生きる」全文

浦添市立港川中学校
3年 相良倫子さん

私は、生きている。
マントルの熱を伝える大地を踏みしめ、
心地よい湿気を孕んだ風を全身に受け、
草の匂いを鼻孔に感じ、
遠くから聞こえてくる潮騒に耳を傾けて。

私は今、生きている。
私の生きるこの島は、

何と美しい島だろう。
青く輝く海、
岩に打ち寄せしづきを上げて光る波、
山羊の嘶き、
小川のせせらぎ、
畑に続く小道、
萌え出づる山の緑、
優しい三線の響き、
照りつける太陽の光。

私はなんと美しい島に、
生まれ育ったのだろう。

ありったけの私の感覚器で、感受性で、
島を感じる。心がじわりと熱くなる。

私はこの瞬間を、生きている。

この瞬間の素晴らしさが
この瞬間の愛おしさが
今と言う安らぎとなり
私の中に広がりゆく。

たまたなく込み上げるこの気持ち
を
どう表現しよう。

大切な今よ
かけがえのない今よ
私の生きる、この今よ。

七十三年前、



私の愛する島が、死の島と化したあの日。
小鳥のさえずりは、恐怖の悲鳴と変わった。
優しく響く三線は、爆撃の轟に消えた。
青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなつた。
草の匂いは死臭で濁り、
光り輝いていた海の水面は、
戦艦で埋め尽くされた。
火炎放射器から吹き出す炎、幼子の泣き声、
燃えつくされた民家、火薬の匂い。
着弾に揺れる大地。血に染まった海。
魍魎魍魎の如く、姿を変えた人々。
阿鼻叫喚の壮絶な戦の記憶。

みんな、生きていたのだ。
私と何も変わらない、
懸命に生きる命だったのだ。
彼らの人生を、それぞれの未来を。
疑うことなく、思い描いていたんだ。

家族がいて、仲間がいて、恋人がいた。
仕事があった。生きがいがあった。
日々の小さな幸せを喜んだ。手をとり合つて生きてきた、私と同じ、人間だった。
それなのに。
壊されて、奪われた。
生きた時代が違う。ただ、それだけで。

無辜の命を。あたり前に生きていた、あの日々を。

摩文仁の丘。眼下に広がる穏やかな海。
悲しくて、忘れることができない、この島の全て。
私は手を強く握り、誓う。
奪われた命に想いを馳せて、心から、誓う。

私が生きている限り、
こんなにもたくさん命を犠牲にした戦争を、絶対に許さないことを。
もう二度と過去を未来にしないこと。
全ての人間が、国境を越え、人種

を越え、宗教を越え、あらゆる利害を越えて、平和である世界を目指すこと。

生きる事、命を大切にできることを、

誰からも侵されない世界を創ること。

平和を創造する努力を、厭わないことを。

あなたも、感じるだろう。

この島の美しさを。

あなたも、知っているだろう。

この島の悲しみを。

そして、あなたも、私と同じ瞬間(とき)を一緒に生きているのだ。

今と一緒に、生きているのだ。

だから、きつとわかるはずなんだ。

戦争の無意味さを。本当の平和を。頭じゃなくて、その心で。

戦力という愚かな力を持つことで得られる平和など、本当は無いことを。

平和とは、あたり前に生きること。その命を精一杯輝かせて生きることだということ。

私は、今を生きている。

みんなと一緒に。

そして、これからも生きていく。一日一日を大切に。

平和を想って。平和を祈って。なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。つまり、未来は、今なんだ。

大好きな、私の島。

誇り高き、みんなの島。

そして、この島に生きる、すべての命。

私と共に今を生きる、私の友。私の家族。

これから、共に生きてゆこう。

この青に囲まれた美しい故郷から。真の平和を発進しよう。

一人一人が立ち上がって、みんなで未来を歩んでいこう。

摩文仁の丘の風に吹かれ、私の命が鳴っている。

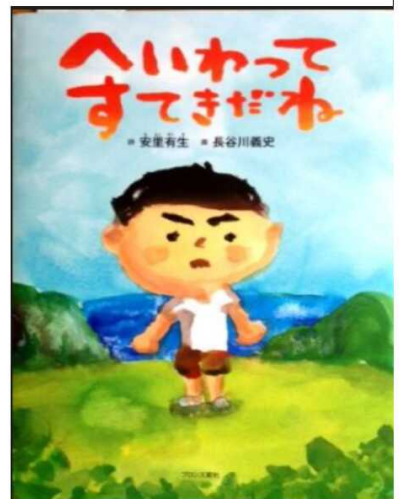
過去と現在、未来の共鳴。

鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に。命よ響け。生きゆく未来に。

私は今を、生きていく。

5年前の詩は長谷川義史さんが絵本に

絵本作家 長谷川義史さんが絵をかいた絵本「へいわってすてきだね」は5年前(2013年)の



沖繩全戦没者追悼式で当時小学校1年だった安里有生君の読んだ詩を本にしたものです。

長谷川さんはこの詩を絵本化する際に、次のように語っています。

「今、描かねばと思った。一部の人が戦争をできる国にしようとして、逃げるのができない」と。

沖繩でオシイヤオバアが体験したこと

あの戦争で実際にあったこと



中学校教科書「ともに学ぶ人間の歴史(歴史的分野)」(学び舎)より P.249

▽「捕虜も降伏も認めない

住民は、壕やガマ(洞窟)にひそんで戦火を避けていました。

日本兵がいたガマでは、食料を出させられ、赤ん坊は外に連れ出すように命じられました。米軍は、降伏してガマから出るように呼びかけましたが、日本兵がガマの出口で銃をかまえていました。

住民は日ごろから、捕虜になるなら帝国臣民として死を選べ、米軍は鬼畜だから捕まったら残酷な眼にあうと教えられていたので、ガマから出ていくことをためらいました。ガマから出て保護される人もいましたが、米軍に攻撃されて死亡する人や自決する人もいました。

日本軍は、最後玉砕を決意して、住民にも手榴弾を配りました。住民がこの手榴弾を爆発させ、家族や近所の人たちといっしょに自決した例が数多くあります。

座間味島では、自決したとされる135人(年齢などのわかる人たち)のうち、12才以下の子どもが55人、女性が57人を占めていました。これらは「集団自決」と呼ばれています。また、住民が日本軍に殺害される事件も起こりました。その多くは、日本軍の情報を米軍にもらしたのではないかと、という疑いによるものでした。(以下、略)